

令和7年度 伊那市立東春近小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標		重点目標(中長期的目標)	
みんなの力で、こちよ学校をつくる 「思いやり」 ○ 相手意識の醸成 ・あいさつをしよう！ ・廊下を歩こう！ ・すみずみまで掃除をしよう！ ○ 集団信頼感向上 ・みんなの話をよく聞こう！ ・自分の思いを伝えよう！		令和7年度テーマ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ～子どもも教師も主体的に～	
		今年度の重点目標	
		(1) 相手意識の醸成 相手意識に基づいた、挨拶、廊下歩行、清掃を大切に。 ・元氣よく挨拶する子ども ・廊下を落ち着いて歩く子ども ・丁寧に清掃に取り組む子ども	
		(2) 集団信頼感醸成 昨年度の研究に引き続き、本年度も人と関わりながら進める活動を通して、学ぶ実感を強く得られるようにする。 ・よく聞き、しっかり伝える	
		(3) 家庭・地域との連携 ・家庭訪問、個別懇談会、参観日の学級懇談会等を有効に活かす ・個別連絡帳、電話連絡、訪問等の細やかな対応を大切に。 ・オクレンジャーの更なる活用を進める。 ・保護者との直接対話によって相互理解や信頼を深める。	
領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	○学校教育目標具現のための教育課程の編成	○思いやりの視点から友と関わり合う活動を重視した教育課程が編成されているか。また、子どもが自分のよさや課題を理解でき、次への意欲が高まるような評価となっているか。
		○家庭や地域の方と連携した教育課程の編成	○学習活動が学校内だけに閉じることなく、地域の方や保護者の方の協力や連携のもとに進める学習活動を計画・展開しているか。
	学習指導	○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	○「知りたい・考えたい・やってみよう」といった自らの問いや願いをもとに、自分なりの方法で追究したり、友と協力しながら追究したりする学習の構築を志向しているか。
		○「授業でやっていることがわかる」とともに、「伝え合い」を大切に学習	○全ての児童に基礎的・基本的な学習内容の理解が図られているか。また、友と伝え合いながら学習を展開する場の設定がなされているか。
	生徒指導	○一人一人に居場所がある、楽しい学校	○それぞれの子どもの個性が大切にされ、一人ひとりが安心して生活できたり、充実感を得られたりする楽しい学校となっているか。
		○いじめの実態の把握及びいじめに対する措置	○いじめの実態が隠蔽されず、並びにいじめの実態の把握及びいじめに対する措置が適切に行われているか。いじめの早期発見、再発防止の取組は適切か。
学校運営	安全	○登下校及び学校生活における安全の確保	○登下校・街頭指導及び安全の日の指導は、児童の安全意識を高め、日常の生活に生かされているか。 ○施設・設備について日常的に点検や管理が行われているか。
		○メディアリテラシーの向上とネット環境下の危険回避	○メディアリテラシーを高めるとともに、ネット環境に潜む危険性についての理解を深められているか。また、危険回避の対策がとられているか。
	地域との連携	○家庭への発信と相談体制の充実	○学校・学年だよりで学校の様子を家庭に十分伝えているか。 ○保護者への連絡や相談等により、家庭の協力を得たり相互の理解を深め合ったりすることができているか。
		○地域との連携	○学習活動の支援や学習環境整備などにおいて、地域の人材、地域資源を生かした取り組みがなされているか。

総合評価		
○学校教育目標である『思いやり』にかかわって「悲しんだり困ったりしている友達を助けることができる」に対する子どものアンケート結果で肯定的な回答が多く、低学年よりも高学年のほうが肯定的割合が高い結果となった。児童が思いやりを大切にしながら成長を重ねていることが感じ取れる。 ○学校教育目標のサブテーマである『こちよ学校をつくる』にかかわって、「学校は楽しい」に対する子どものアンケート結果で肯定的な回答が多くなった。また、保護者からのアンケートを見ても、子どもが楽しく学校生活を送ることができていると感じている保護者の割合が大変多い結果となった。反面、否定的な回答をしている児童も一定数みられる。否定的な回答をした児童により目を配り、友達関係や学習面などにおける困り感に寄り添っていきたい。		
成果と課題	評価	改善策・向上策
(1) 挨拶・廊下歩行・丁寧な清掃については、「できている」と感じている子どもの割合が高く、それらの観点のもとに自分のよさを感じることができている。反面、職員や保護者からは更なる向上を求める声も多い。子どもが「自分ではできている」と感じている、相手の心地よさとなるまでには至っていないということへの気づきについては課題がみられる。	B b	○相手意識をもとに動くことができる環境作りとして、生活場面や学習場面で児童が自己選択・自己決定できるような選択肢の幅を用意する。 ○元氣のよい挨拶、廊下歩行、丁寧な清掃等が自分以外の他者を思いやることにつながることを考え合う場面を設定したり、子どもたちのよい姿を全力で拾い上げることの価値を職員や保護者が共通理解したりする。
(2) 「友達の話をよく聞こうとしている」について、自分を肯定的に捉えている子どもが大多数であり、授業態度として子どものなかに根付いていることが感じられる。「自分の考えや気持ちを話せる」というアンケート項目では、肯定的な比率が若干低くなる傾向がみられ、「思いを発信する」という部分に更なる高まりを求めたい。	B b	○子どもがのめりこむ学習活動の中に、友と関わり合って追究する場面を設定する。 ○友の困り感を共有し、全体で解決策を考え合う場面を設定する。 ○相手の話を最後まで聞く、待つ、見つめる、うなづくことのよさへの声掛け ○互いのよさに気づき合ったり、思いを共感的に受け止め合ったりする場面の設定。
(3) 保護者アンケート「学校や学級で大切にしていることや、子どもたちの様子が伝わっている」「保護者からの連絡や相談に対応している」への肯定的な回答の割合が高く、今年度に取り組んだ懇談や通信、個別連絡等によるきめ細やかな対応を、今後も積み重ねていきたい。特に、子どもたちのよさを保護者と共有し合うこと、保護者の方の思いに寄り添うことについて職員で共通理解を深めていきたい。	A a	○地域との連携について、たき火の会(老松場)の皆さんと協力した活動を総合的な学習の時間に取り入れるなど、地域のよさを感じ取ることにつながる活動の充実を図りたい。 ○年度当初に各児童の「個人情報取り扱い」について細やかに保護者に確認し、通信等に掲載する写真が子どもたちのいきいきとした表情の感じられるものとなるよう一層の改善を図る。
成果と課題	評価	改善策・向上策
○通知表における教科の評価観点を教科ごとに検討し、単元別の観点を取り入れ、子どものよさや課題が伝わりやすく、次への意欲につながるものとなった。授業時数の適正化について検討が必要である。	B b	○グランドデザインの簡潔化によって、子ども一人ひとりが本校の合言葉として『思いやり』を意識する姿があり、継続したい。授業時数の適正化について、子どもたちのゆとりある学校生活に向けて検討したい。
○米作りなどで地域や保護者の方と連携した活動が実施できた。しかし、活動時間の確保や保護者負担等が課題である。また、クラブ活動に地域講師をお迎えできた。子どもの希望と講師の専門内容との整合に課題がある。	A a	○田んぼ学習はバケツ稲を用いた学習への転換を検討したい。家庭や地域の方と連携した活動の充実に向け、年度当初に活動を見通したい。また、子どもの願いに基づいたクラブ発足に向け、公民館の協力を模索していく。
○研究会等を通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について職員の共通理解が進んだ。具体的な単元展開や学習活動に落とし込んでいくにあたり、個々の児童への対応に難しさがある。	B b	○それぞれの子どもの問いや願いに基づき、それぞれの子どもがそれぞれの方法で追究するにあたって、ICT機器を用いて情報を集めたり、整理・分析したりすることができるよう、ICT活用能力の向上をはかる。
○各学年、各クラスが学力検査等の結果分析を緻密に行い、子どもの困り感に寄り添った個別支援を行った。着実な成果が見られる反面、学年相応の力の獲得には至っていない児童もみられる。	B b	○基礎的・基本的な力の育成に向け、家庭学習や授業冒頭の帯活動などで反復練習を大切にしたい。また、個人追究だけでなく、グループ追究を大切にし、伝え合い教え合う心地よさが感じ取れる場の充実を図る。
○児童アンケートの「学校は楽しい」についての結果では、9割程の子どもたちから肯定的な結果が得られた。学年が進むにつれて数値が下がる傾向がみられ、生活面や学習面に困り感を抱える児童の存在に留意したい。	A a	○Q-Uアンケートの結果分析についての研修会や検討会を実施し、具体的な手立ての見通しまで検討する。また、否定的な回答の児童について全職員でより注意深く目を配っていくことを職員間で共通理解する。
○各児童の困り感を定期的に聞き取る「相談の時間」を確保し、実態の把握に努めた。また、全職員で心配な児童の様子に目を配り、担任に相談できない様子の子には相談室の利用を呼び掛けた。	B b	○保護者の方と情報共有し、協調して児童の支援に当たれるよう、より細やかな情報共有と意思疎通を図るようにする。また、生徒指導係や管理職を含めてより組織的な対応に検討したい。
○安協や見守り隊の皆さん、地域の方の交通安全への配慮等のおかげで、児童の大きな事故はなかった。しかし、登下校時の危険行為について地域の方から連絡をいただくことがあった。また、設備の老朽化は課題である。	A a	○通学路の安全マップを有効活用し、地区子ども会で危険箇所の確認を徹底する。施設設備の老朽化は、優先順位をつけて順次更新や修繕を行っている。
○担任指導、メディアリテラシー講演会、メディアリテラシーをテーマとした校長講話等を実施した。また、家庭へのタブレットの持ち帰りについては学級閉鎖期間に限る等、限定的なものにとどめるなどの対策を行った。	A a	○伊那市デジタル・シティズンシップ教育カリキュラムのもと、文科省情報モラル教育ポータルサイトを活用した学年に応じた取り組みについて検討したい。
○保護者アンケート「学校や学級で大切にしていることや、子どもたちの様子が伝わっている」で93%の保護者から肯定的な回答が得られた。連絡システムが定着し、双方向での連絡が可能となっている。	A a	○携帯電話や職員タブレットで連絡システムを確認したり、各種希望調査アンケートを連絡システムで実施したりするなど、更なる有効活用法を探っていく。重要事項については電話や対面での対話を今後も重視する。
○たき火の会(老松場)の方を講師にお迎えしての職員研修や、6年生の老松場耕作活動を行った。見守り隊の活動には39名に参加いただいた。3年	A a	○今年度は、学力向上支援事業で6年生の家庭科学習への支援をいただいた。算数学習で苦勞している子が多い学年について、学習ボランティアさ

				生の地域学習でも地域の学識経験者の方にご指導いただいた。		んによる授業での個別支援を検討したい。
研 修	○校内研究の充実	○公開授業や授業研究会を通して、研究テーマに沿った授業力向上を図ることができているか。	○課題意識に応じてグループ研究会を継続的に行った。個別最適な学びと協同的な学びの一体的な充実について、理解を深めることができた。子どもの問いや願いを引き出す授業の導入などについて更なる研究を深めたい。	A b		○各職員の課題意識をベースにしつつ、授業力向上の具体的なキーワード（「子どもの“追求したい”を引き出す」など）をもとに、共通の視点に立って授業力の向上を図っていききたい。
	○職員研修の工夫と充実	○「学び続ける教師」を求めていく大切さを職員が共通理解し、校内外の人材を講師として活用しつつ、職員のニーズや昨今の教育課題に応じた内容の研修を実施しているか。				○「児童理解」「コーディネーショントレーニング」「地域史跡」等の内容で外部講師をお招きして研修を実施した。また、毎回の職員会議で非違行為防止研修としてグループ討議を行った。